2024 年度第 1 回 CPD 協議会公開シンポジウム

～科学と社会をつなぐ技術者の役割～

日　時：2024 年 12 月 12 日（木）9 時 30 分～11 時 40 分
場　所：オンライン（Zoom 会議　ウエビナー）
主　催：公益社団法人　日本工学会 CPD 協議会
定　員：制限なし
参加料：無料

生成 AI といった革新的・先端的な技術をはじめとして、人類が積み上げてきた知識や技術の飛躍的な発展は、社会にさらなる成長と変革をもたらしています。研究者の知的探究心から生み出された新しい「知」に基づきながら、技術者は革新的な「技術」で不可能を可能にし、豊かな社会を実現してきました。その一方で、先端科学技術の発展は「できること」を爆発的に拡大しており、技術者は「やるべきこと」・「やって良いこと」・「やってはいけないこと」を、自らが深く考える時代となっています。ここでは、「どこまでが許されてどこからが許されないのか」という難しい線引きのあり方を論じる「ＥＬＳＩ/ＲＲＩ」について、改めて深く考えるシンポジウムを企画しました。

司会　五十嵐　仁一　　日本工学会副会長、CPD 協議会副会長

プログラム　（敬称略）

9:30～9：35　開会のあいさつ
石原 直　日本工学会副会長、CPD 協議会会長

9:35～10:05　基調講演「科学技術・イノベーションと社会：ELSI／RRI を考える意義（仮題）」
小林傳司　科学技術振興機構 社会技術研究開発センター長、
大阪大学名誉教授　大阪大学 CO デザインセンター特任教授
本講演では、近年、科学技術政策において注目を集め始めている ELSI／RRI について、その歴史と概略を説明する。その上で、海外の状況、日本の取り組みについて触れ、それぞれの課題を指摘したい。そして近年のトロント市のスマート・シティ構想をめぐる議論や、人権デュー・ディリジェンスなどへの対応必要性の高まりなどを踏まえ、ELSI／RRI をより広い文脈で考える必要性があることを論じたい。

10:05～10:25　講演 1「計測制御技術分野の技術者教育：ECE プログラム・プロセス塾 16 年」
本多敏　　SICE プロセス新塾一考究　塾長、慶應義塾大学名誉教授
慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所
（公社）計測自動制御学会では、2006 年度から、「骨太技術者の養成」を目標に、通年のプロセス塾（自学自習をメインとした 6 回のスクーリング・見学会）を毎年継続し、今後の産業界を支え得る高度技術者５３１名を送り出している。2014 年度には（公社）日本工学会 ECE プログラム認定を受審し、第三者機関認定を得るとともに、他業種から集まる塾生間の知的交流を図るなど、充実した運営をしており、その活動概要・成果について報告する。

10:25～10:45　講演 2「データビジネスと哲学・倫理学をつなぐ：ELSI 領域における産学共創の実践から」
朱喜哲　　株式会社電通　チーフ・リサーチ・ディレクター
大阪大学 社会技術共創研究センター（ELSI センター）招聘准教授
新たなテクノロジーの社会実装は、利便性ばかりでなく数々のリスクをも市民社会にもたらす。このとき「技術面以外のあらゆる課題」を考えるフレームワークが ELSI（倫理的・法的・社会的課題）である。本講演では、データビジネスをフィールドとしてビジネスとアカデミアに跨って推進した ELSI 対応の実践を紹介するとともに、そこで哲学・倫理学が担う役割について報告する。

10:45～10:50　休 憩

10:50～11:35　意見交換　科学と社会をつなぐ技術者の役割
パネリスト　小林傳司、本多敏、朱喜哲
モデレータ　五十嵐仁一

11:35～11:40　閉会のあいさつ
高木真人　日本工学会理事・CPD 協議会副会長

＊プログラムは、都合により変更となる場合があります。

お申込は日本工学会ホームページから WEB 申込をお願いいたします。
お申込みいただきますと、折り返し、受付確認と Zoom の URL などが、記入頂いたメールアドレスに送信されます。

お申込　https://www.jfes.or.jp/

公益社団法人日本工学会 CPD 協議会　Tel:03-6265-0672 E-mail: eng@jfes.or.jp

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

☆　☆

CPD 協議会会員（20 学協会）：　安全工学会、空気調和･衛生工学会、計測自動制御学会、地盤工学会、情報処理学会、ターボ機械協会、電気学会、電気設備学会、電子情報通信学会、土木学会、日本技術士会、日本原子力学会、日本コンクリート工学会、日本船舶海洋工学会、日本塑性加工学会、日本デザイン学会、日本マリンエンジニアリング学会、日本冷凍空調学会、農業農村工学会、プレストレストコンクリート工学会